

# 異文化コミュニケーション NEWSLETTER

No. 13

June 1992

INTERCULTURAL COMMUNICATION INSTITUTE  
KANDA UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES  
1-4-1, Wakaba, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba-ken, 261 Japan

神田外語大学・異文化コミュニケーション研究所  
〒261 千葉市美浜区若葉1-4-1  
(Phone) 043-273-1233 (Fax) 043-272-1777

## 特集：韓国と日本

日本にとって歴史的にも文化的にも最も密接な関係にあるのは韓国であろう。「近くて遠い」と言われてきた両国の関係は、ECの統合やアラブ世界の団結にみられるように、世界が再びブロック化しかねない今日にあって、きわめて重要であることには疑念の余地がない。そこで今回は、日本文化に造詣の深い3名の韓国の研究者に両国のことばと文化という視点から筆をとってもらった。今後の異文化コミュニケーション研究にも多くの示唆が得られることと思われる。

### 日常語からみた 日本人のコミュニケーション

神田外語大学教授 金 東 俊

ことばが文化のすべてではない。しかし、ことばは文化である。話すことがコミュニケーションのすべてではない。しかし、話すことはコミュニケーションである。

自国で自国語を日常使っている人には、取り立てて外国語と比較してみない限り、自国語の文化的特徴に気づくことは難しい。しかし、日本語を母語としない人はそれに気づき易い。と言っても、ことばの違いについては誰でも気づき易いが、ことばの裏側に隠されている文化までは、なかなか思いが及ばない。

韓国語では water を [mul] と 1 語でいうのに対し、日本語では水温が平温か高温かによって「水」と「湯」と 2 語で使い分けをする。また、韓国語では人体の leg を [tari]、foot を [pal] と 2 語でいうのに日本語では「あし」と 1 語でいう。これ位の表層的な違いにはすぐ気づくけれども、どうしてこのように物の見方が違うのか、ことばの文化的意味の違いは何なのかを究明することは至難なことである。

中でも日本語の特徴の一つである敬語の使い方は、場面の状況や話し手の心理状態によって微妙に揺れ動く感情がよく表現されるものである。

多少なりとも敬意を表す語を持つ言語は数多くあるであろうが、日本語や韓国語ほど敬語が文の構成に文法的影響を強く与える言語は他にないと思われる。正に両言語に共通する大きな特徴である。

しかも、敬意表現の方法、つまり敬語法の構造が非常によく似ていて、韓国語にも第三者に対する敬語、聞き手に対する敬意表現の対者待遇法（丁寧語に相当するもの）、謙譲語等がある。また、「いらっしゃる、めしあがる」のような敬語の単語を使ったり、「お書きになる——おVになる」のような、あるフォームによって敬語形をつくる点でもよく似ている<sup>(1)</sup>。

しかし、敬語法の構造はよく似ているものの、その用法はかなり違う。いろいろところで微妙な違いがあるが、もっとも顕著な違いをみせるのは、日本語の場合は、他人に対して自分の身内の者について話すときには敬語を使わないが、韓国語の場合は、他人に自分の親・兄弟・職場の上司等に対して敬語を使うという点である。フォーマルな場面では一層きちんとした敬語を使う。

単純に割り切れるものではないが、大まかに言えば、日本語はウチとソトが敬語使用の大きな軸になっていて、身内の者であればソトを意識して自分の目上の者であっても他人に向かって敬語を使わないが、韓国語は年齢が基本的な軸になっていて、身内の者でも目上であれば、ウチ、ソトに関係なく他人に向かって敬語を使う。日本語は聞き手によって敬語を使い分ける相対敬語であるのに対し、韓国語は聞き手によって変わることはない絶対敬語である。韓国は親（特に父親）に対してきわめて敬意の高い言葉遣いをするのに対し、日本ではきわめて低い<sup>(2)</sup>。

1987年に、東京近辺の日本人大学生男子72人、女子119人の計191人、ソウル近辺の韓国人大学生男子118人、女子170人の計288人について、聞き手に対する敬意表現の度合をアンケート調査したことがある。これによって、次のようなことが分かった。

日本人の学生は父親に対する敬意表現度が初対面の中学生よりも低く、母親に対してはそれよりもさらに低いという結果が出た。一方、韓国は父親に対しては50歳位の知人の次に位置し、母親に対しては大学の上級生の次に位置していた。

兄弟姉妹についてみると、日本は誰に対しても同じように接するが、韓国は兄弟に対しては上位者として丁寧で、弟妹に対しては兄弟とは、はっきり違う下位者としてぞんざいな接し方をする。

このようなことは文化的に何を意味するものだろうか。日本語は in group であれば、ソトに向かってウチに

於いてもきわめて低い敬意表現をするのに対して、韓国語は in group であるかどうかはあまり問題とならず主として年齢の上下関係が敬意表現を左右する。つまり、敬意表現によってみる限り、人の言動を左右する日本の文化はウチとソトをはっきり区分し、ウチに対してはあまり気兼ねせず、ソトに対しては常に気配りする精神文化であると考えられる。

日本語には、敬意表現ばかりでなく他にもそのような思われる表現形式がいくつかある。「どうぞ」、「どうも」、「…が欲しい」というのがそれである。客の前に飲食物を置いてこれを勧めるとき、ノックされて入室を許可するとき、何かを人に見せるとき、座るよう勧めるとき、…「どうぞ」の一語で聞き手はその意味がすぐ分かる。「どうも」も感謝の意味か、謝罪の意味か、あるいはその他の意味かすぐ分かる。「あれが欲しい」だけで、何かを買ってもらいたいのか、それとも何かを食べたいのがすぐ分かる。

このような表現を聞いてその意味をすぐ理解するためには、何か言われたらすぐその辺りの状況に目を配り、話し手が何を考えて言っているのかについて気配りをしなければならない。この察しを間違えて行動に出ると笑われることになる。そのため、言外に語られる意味を常に意識しなくてはいけない点で、日本語でのコミュニケーションは大変神経を使うことを余儀なくされる。

韓国語にはこのような言い方がない。いずれも具体的な動詞か形容詞を使って表現するので、筆者にとっては韓国語によるコミュニケーションは気配りせず目を閉じていても意味が取れるので楽である。

二カ国間の言語学的対照研究はある程度行われている。しかし、言語の背後に潜んでいる文化的相違について論ずることは、伝統的な言語学の領域を超えたものである。それぞれの文化を身につけている人々が協力して研究すべき新しい分野ではなからうか。このような研究がなされてこそ、真の異文化コミュニケーションへの展望が開かれよう。

注

- (1) 金東俊、「朝鮮語の敬語」、『日本語百科大事典』653-659頁、大修館書店、1989年。
- (2) 金東俊他、「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」、『朝鮮学報第136輯』、15-18頁、朝鮮学会、1990年。

—\*—\*—\*—

## 各言語の漢字語について

姜 信 沆

(韓国) 成均館大学校・教授—韓国語学

東アジアの各国は、漢字を共通に使用している。そして、いわゆる漢字文化圏内では、漢字で各々の国の言語を書き表せば、意味がたやすく通じるものと信じている人が案外多い。特に韓国を訪れた旅行者は、道すがら見える看板が皆“ハングル”(韓国固有の表音文字)で書かれているので、甚だ不便だと指摘する。

しかし、これは漢字を使用し過ぎるように見える日本の表記生活でも同じ現象のように思われる。今、ある韓国人が成田空港に到着したとしよう。彼は“スカイライナー”“ウイング”のような外来語が多く使用されているのに驚かされる一方、“宅急便”のような「日本語漢字語」に首をかしげるであろう。さらに車に乗って東京都内に入って来る途中、道路の通行状況を示す「渋滞」という単語をどのように発音して良いかと考えこまざるを得ないのである。韓国では「停滞」という。このような漢字使用法の違いは、本家の中華民国・中国に行ったときもすぐ気づくものである。空港は「機場」、旅券は「護照」入国は「入境」、通過旅客は「過境」といい、輸出は「出口」、輸入は「進口」、非常口は「安全門」という。漢字さえ少し知っていれば大体通じるに違いないと早合点していたのが、どれ程間違った考えであったかを反省させられるのである。

漢字使用法の相違は、音読をする韓国・中国と、音読と訓読を併用している日本との違いに由来するものも多い。音読だけをしてきた習慣に慣れている目でみれば、「取次店」「電話買取り」「蒲焼」「御食事処」「習志野」「月極駐車場」のような表記にまごつくのである。

又、同じ漢字語でも意味が全く違う場合が多い。日本語の「工夫」は、韓国語では「勉強」、中国語では「暇」の意味に使われ、日本語の「御前」は韓国語では「王様の前」という意味だけで使われた単語である。「御遠慮下さい」といわれたら、韓国人は、何を慎重に考えてくれというのだらうかと考えこむかも知れない。ホテルを「大飯店」という中国人が日本に来れば、「中華飯店」と書いてあるビルディング(中国語では大廈)に旅行鞆(中国語は「行李」)をかたいで入って行くかもしれない。「飯店」は韓国でも「食堂・飲食店・料理屋」の意味に使われている。しかし中国語では「食堂」は「餐廳」といい、「ある事柄を解決する」という意味に「料理」を使っている。

ホテルでテレビ(韓国語でテレビ・ティビィ、中国語で電視)を見れば、天気予報(韓国語で日気豫報、中国語で天気予報)の時間にも表現が違う事に気づくであろう。

日	韓	中
氷点下	零下	零下
降水量	降雨量	降雨量

このたぐいの事は、ホテルの前にある郵便局(韓:郵便局、中:郵局)に入ってもすぐ経験することが出来る。

「郵票(韓・中)を3張下さい。」(郵票=切手、3張=3枚)

「この便紙を登記にして下さい。」(便紙、中国語では信・封信、登記=書留、中国語では掛號)

郵便局の係員に、郵票、便紙(片紙)などを漢字で書いて見せても理解出来ないのは中国の場合も同じである。中国では、葉書・絵葉書も通じないのである。中国語では信片・明信片という。

このような例をさらにいくつか挙げて見れば次のよう

である。

日	韓	中
案内	案内	案内
案内	案内	指南・陪同
汽車(驛)	汽車(驛)	火車(站)
医者	醫師	醫生
齒科	齒科	牙科
一生懸命	熱心・最善	拼命地
階段	層階	樓梯
火事	火災	火災
格好	模様	様子
喫茶店	茶房	咖啡廳
我慢	忍耐	忍耐
勘定	計算	計算
感心	感動	佩服
看板	懸板	招牌
帰国	歸國	回國
急行・特急	急行・特急	快車・特快
牛乳	牛乳	牛奶
給料	月給・報酬	薪水
興味	興味	興趣
筋肉	筋肉	肌肉
下痢	洩瀉	瀉肚

このように東洋三国では同じ漢字を使用して漢字語を作り、各言語の語彙として広く使っているが、よく比べて見れば各々特徴があるのである。これらの漢字語はお互いに影響を与えたり受けたりして使用されているものもあり、その言語の体系の中で独自に発達したものを使用しているものもある。本稿では同じ漢字文化圏でも誤解がいくらかでも起こりうることを例を挙げて示した。漢字文化圏同士の接触が今後益々頻繁になることは明らかである。将来、この類の研究を広汎かつ深く行う必要があらう。

— \* — \* — \*

## 鶏 の 話

任 東 権

(韓国)中央大学校 教授、(韓国)民俗学会会長

由緒ある古い神社では、よく馬や鶏を飼っており、それは、神馬、神鶏と呼ばれている。おそらく神のもの、神に捧げるもの、または神に仕える意味でそのように呼ばれているのであろう。神鶏は小柄で赤色を帯びていて品種改良されていない原種であらう。

天の岩戸の神話によると、神が石窟の中に隠れてしまったため、天地は闇につつまれ災厄がおこったので常世の長鳴鳥を集め鳴かせたとあるが、長鳴鳥とは鶏であったとの主張がある。そうであるとすれば日本に於ける鶏の歴史も古い。

伊勢神宮では20年おきに遷宮式が行われているが、その儀式の中に鶏のまねをする神儀がある。神官が正殿端垣門内に進み、まず扇で頭の冠を三度打ち、続いて三度「カケコ」と鶏声をまねて唱えると、正殿の扉が開き、

神殿の奥から神鏡を奉安した櫃である御樋代が出御するといわれている。伊勢神宮の式年遷宮は持統朝から始まったから7世紀の終わりからであり、遷宮祭儀式の制定は延喜式の施行(905)以来とされているので、鶏と神儀のつながる時代が推測される。

対馬の美津島町に鶏知郷がある。鶏知は慶知、介知とも呼び申叔舟の海東諸国記には桂知と記録されているから原音はケチであることが分かる。伝説によると神功皇后が城山に登った時に、東の方で鶏の鳴き声があったので、その方向に人の住む村があることを知り、訪れたところよい土地であった。それで行宮を定め、白江山に住吉大神と和多津美神を祭り、この村を鶏知と呼ぶようになったといわれている。

鶏の鳴き声が吉祥をつたえるという説話は既に新羅にあった。『三国遺事』によると脱解王代(A D 57-78)のとき鶏が樹林で鳴くので王が訪ねて行ったところ櫃があった。開けてみると男の子がいたのでつれてかえる時に鳥や獣がよろこびおどった。その子の名を閔智と呼び脱解王は王位を譲ろうとしたが辞退したといわれている。新羅の古名が鶏林国と呼ばれたのは鶏鳴の故事による。新羅は建国のときから鶏とのつながりがあったし、新羅古墳の中から鶏卵や鶏骨がよく出ることからも鶏を好んだ新羅人の生活を窺うことができる。

韓国から日本に渡る第一歩の一番近い島である対馬の鶏知の伝説が新羅の鶏林譚と酷似しているのは、大陸文化の流れから理解できる。

3世紀頃の記録である三国志魏志の東夷伝によると韓国の珍しい物産として細尾鶏がいて、その尾の長さ5尺余りとされている。

中国三門峡廟底溝でB C 2500年の龍山文化期の住居遺跡から、鶏の骨が発掘されたが、馴化された家鶏と鑑定された。またB C 15世紀頃の甲骨文字にも鶏の文字があり、詩経のなかには鶏鳴をうたった詩があり、B C 3世紀ごろの戦国時代に東周には、祭祀を掌った鶏人官制があった。このように中国では資料からしても5千年の歴史がある。

6世紀中葉、梁の宗懐の著荆楚記とその後の隨の杜公瞻補充の荆楚歳時記によると、正月1日を鶏日とし、鶏旦とも云い、鶏日には鶏鳴いて起き、鶏画を戸上に貼ることによって、災厄を防ぎ悪鬼を追い払う呪術が記録されている。

学者によって異説はあるが、一般的に鶏の祖先として有力な野鶏は、インド、ビルマ、マレーシア、中国の南部のものとしており、資料からみて中国では既に5千年も前に鶏がいたし、徐々に韓国や日本に広がったものと思われる。民族の移動や人々の旅行によって、鶏も持ち運ばれて伝播されたであらうことが想像できる。

古代人の思惟では、鳥は空を飛ぶので能力が認められ、この世とあの世、地と天を往来することができると認められたのに対して、あまり飛べない鶏は早くから人に馴化されて、人があたえる餌を食べては卵を産み肉を提供するようになった。ところが鶏は単なる栄養供給の材料

にとどまらなかった。卵から新しい生命がうまれるので、卵生神話をうみ、鶏は時刻の変化を知る靈感があったので、高く評価されて新羅の鶏林説や対馬の鶏知の伝説や伊勢神宮の神儀にまで発達していったのであろう。

韓国の江原道の山村では、山の神の祭りの時に、鶏を山神堂のそばに縄で縛っておいたり、つるしておく神儀は、鶏を山神への神饌とした例がある。また水に溺れて死んだ人の屍体が見つからない時には、鶏をかかえて溺れた川や沼の辺りを歩き回ると、屍体のある処に行けば鶏が鳴くといわれて、シャーマンが験めす占いとして伝承されている。この様なことは利根川あたりにもある。鶏を板にのせて流すと、溺屍体のある処にすれば鶏が鳴くそうで、屍体さがしに使われている。

鶏の事例からして、時間と空間を異にしなが、類似性が見られるのはなんらかの文化的なつながりがあるからである。古代において、早く文化の花を咲かせた中国から、陸続きの韓国を通して島々へと広まって行った面影が、鶏の場合にもみとめられる。文化は一方通行とは限らないが、水が高い所から低い所に流れる様に、文化の中心部から辺境へと流れて行くのが一般的といえる。

伝承文化現象は一つの点ばかり凝視しないで広く巨視的に比較観察することによって、解明の糸口をつかむことができる。

## 研究所からのお知らせ

### 紀要『異文化コミュニケーション研究』第4号発行

『異文化コミュニケーション研究』第4号は6月に刊行されます。収録論文は以下の通りです。ご希望の方には、実費でお頒けしていますので、相当額分の切手同封の上、お申し込み下さい。

紀要 一部につき 710円(郵送料を含む)

抜刷 論文一点につき 250円(〃)

—収録論文一覧—

### AN INTERCULTURAL INTERPRETATION OF THE PERSIAN GULF CRISIS

Edward C. P. Stewart

湾岸戦争英語報道にみられる対立的要素

ーフセインの大義とブッシュの正義—

浅野雅巳

湾岸戦争と日本の対応

高杉忠明

日本の大学におけるコミュニケーション教育の実態調査報告II

神戸外語大学 異文化コミュニケーション研究所  
(古田 暁、久米昭元、長谷川典子)

## 暮張夏期セミナー 大学における「異文化コミュニケーション論」の 教育と方法

当研究所では、昨年度に引き続き、異文化コミュニケーション論を教えておられる先生方を講師にお招きして「異文化コミュニケーション論の教育と方法」というテーマで2泊3日のワークショップを行います。

日時：9月12日(土) 18:00~

9月14日(月) 12:00

場所：海外職業訓練センター(OVTA)

(千葉市、幕張)

講師：セッションA 岡部朗一(南山大学)

「政治コミュニケーション」

セッションB 上原麻子(広島大学)

「Cultural Adaptation」

セッションC 渡辺文夫(奥羽大学)

「多極的異文化接触論」

参加資格：大学、短大で「異文化コミュニケーション」や「比較文化論」等の科目を担当されている方、担当する予定の方、「異文化コミュニケーション」教育に関心のある方。

募集人数：各セッション15名まで

参加費：27,000円(宿泊費、食費、資料費含む)

申し込み締切日：6月30日(但し、参加希望者多数の場合は申し込み先着順とさせていただきます)

セミナーのプログラムの詳細については研究所までお問い合わせ下さい。

## 新刊紹介

### 『国際理解教育のキーワード』

国際交流、海外子女教育、異文化接触と適応等、教育の国際化に関する知識の整理に必要な重要用語241を厳選し、平易に解説した書。言語教育、文化ならびにコミュニケーションに関する用語もかなり含まれている。

原田種雄・赤堀侃司 編 有斐閣 2,400円

### 『政治コミュニケーション—アメリカの説得構造を探る』

大統領のスピーチや政治討論のように、「語る」ことを必須のものとするアメリカの政治にみられる説得コミュニケーションの諸相を、具体的な事例を豊富に援用しながら解説した著作。

岡部朗一 著 有斐閣 2,060円

### 『世界文化情報事典—カルチャーグラム102』

世界102の国や地域を取り上げ、生活習慣、国民性、社会文化状況などを解説。激動する世界の背後に息づく人々の生き方や考え方も見すえた本事典は、異文化コミュニケーションの架け橋ともなりえるものである。

G. P. スケーブランド、S. M. シムズ 編  
古田 暁 編訳

大修館書店 6,180円

### 『感性のコミュニケーション—対人融和のダイナミズムを探る』

対人コミュニケーションの新しい理論的枠組みのもとに、実例に即して誤解や説得のメカニズムを探り、効果的なコミュニケーションのあり方を示唆した著作。

ウィリアム S. ハウエル・久米昭元 共著

大修館書店 1,751円

〔千葉市の政令指定都市への移行に伴い、1992年4月より当研究所の住所、電話番号、F a x 番号が変更されましたので御留意下さい。〕